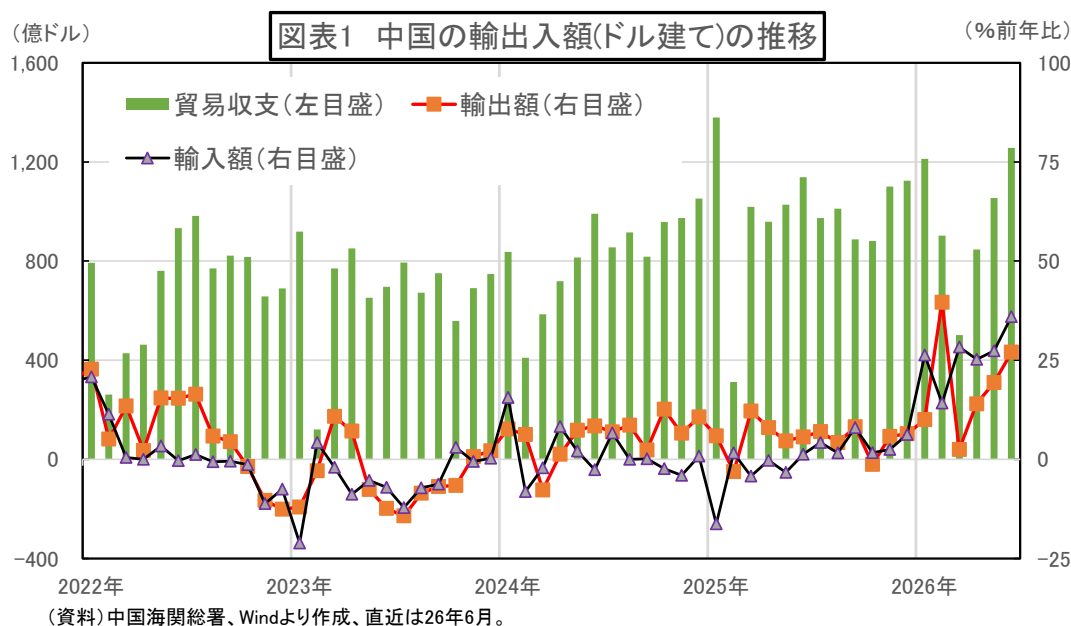


### (中国)6月の輸出入はともに予想を上回り、好調が続く

2026年7月14日に中国海関総署が発表した6月の貿易統計によると、6月の輸出額(ドル建て)は前年比27.0%の4,124億ドルとなり、市場予想を大幅に上回った。これは3月(同2.5%)、4月(同14.1%)、5月(同19.4%)から伸びがさらに拡大し、8か月連続のプラスとなった。(図表1)。

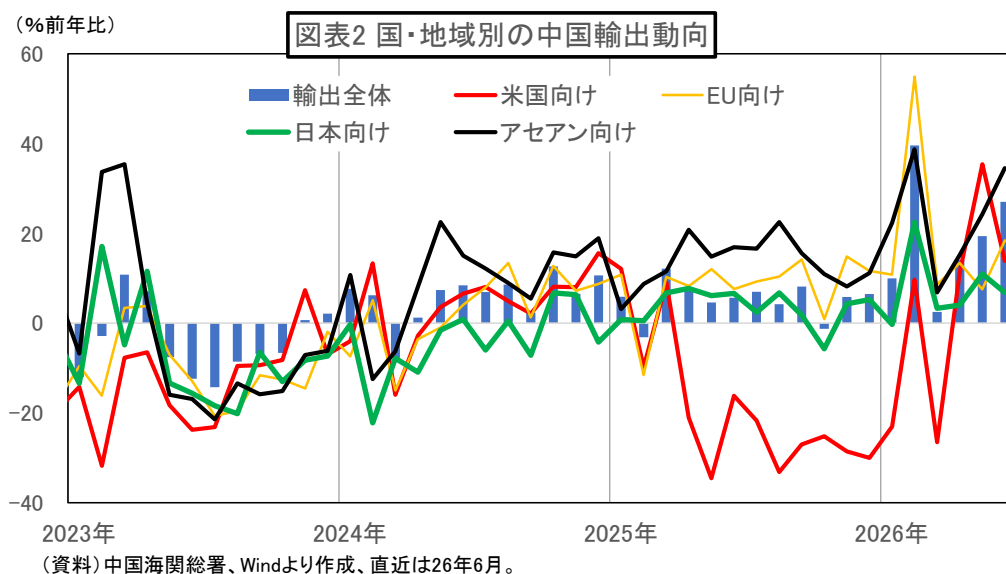


輸出額の大幅な増加を支えたのは、世界的な AI 投資ブームの拡大と、それに伴う半導体や電子部品の価格上昇である。また、米国とイランによる覚書締結を受けて中東情勢が一時的に安定したことや、特に欧州では夏場の高温を背景にエアコン需要が急増したことなども、輸出を押し上げる要因となった。

品目別にみると、AI 関連製品や電気自動車(EV)、船舶などの高付加価値製品の輸出が大きく伸びた。6月の集積回路(382億ドル、輸出全体の9.3%)は前年比121.9%と大幅に伸びた。ただし数量ベースでは前年比▲0.4%と4月(同3.8%)、5月(同2.0%)から鈍化しており、価格上昇が主因である。また、自動データ処理装置および部品(271億ドル、同6.6%)も同53.1%と5月(同66.1%)からやや鈍化したものの依然として高い伸びを維持している。さらに、自動車(シャシーを含む、182億ドル)と船舶(64億ドル)はそれぞれ同69.6%、同42.3%と引き続き底堅く推移している。

これに加え、減少傾向にあった衣類やかばん、玩具といった労働集約型製品の輸出も改善が見られた。6月の衣料品とかばんの輸出は前年比3.2%、1.7%となり、マイナスからプラスに転じた。玩具や靴の輸出は依然として減少しているものの、減少幅は縮小しており、これらの品目による輸出全体への下押し圧力は弱まっている。

国・地域別にみると、ASEAN 向け(783 億ドル)、EU 向け(583 億ドル)はそれぞれ同 34.5%、同 18.5%と 5 月から大きく伸びた(図表 2)。特に欧州では夏季の高温により空調需要が増加した結果、6 月の中国から EU への空調輸出は前年比 72.8%と大幅に増えた。米国向け(435 億ドル)と日本向け(144 億ドル)はそれぞれ前年比 13.9%、6.9%と、5 月から伸びが鈍化したものの、比較的堅調であった。



輸出の先行きについては、7 月も高い伸びを維持する可能性が高い。中国の製造業では高度化が進み、輸出の主力が衣料品や雑貨などの労働集約型製品から、電気自動車、リチウム電池、太陽光発電製品、AI 関連製品、船舶など技術・資本集約型製品へと移りつつある。また、輸出市場の多様化も進んでおり、中国の輸出の安定性を高めている。2026 年上半期には、「一帯一路」沿線国・地域向け輸出が全体の半分以上を超え、新興市場が中国輸出の重要な支えとなっている。さらに、米中関係が安定しつつあることから、対米輸出も緩やかな回復基調を維持するとみられる。

ただし、輸出が高い伸びを続けると見込まれる一方で、下半期には輸出の伸びが鈍化するリスクも存在する。まずは、AI 関連投資ブームの持続性、中東情勢の不安定化などが懸念材料である。また、中国の輸出拡大が続くほど、各国・地域との貿易摩擦が強まる可能性がある点もリスク要因である。欧州連合や米国は鉄鋼の輸入枠縮小、小額商品の免税制度の見直し、中国製電気自動車への反補助措置など、中国製品への規制を強化しており、輸出の下押し要因となる。さらに衣料品や靴、かばんなど労働集約型製品の輸出が依然として弱いことも懸念材料である。

6 月の輸入も高い伸びが続いている。6 月の輸入額(ドル建て)は前年比 36.0%の 2,868 億ドルと予想を大幅に上回った。輸入増加の背景には、資源・部材価格の上昇と AI 関連投資の活況がある。集積回路や鉄鉱石、石炭、大豆、天然ガスなど一部品目では輸入数量も回復し、5 月に見られた「数量減少と金額増加」から「数量と金額ともに増加」へと改善した。詳細をみると、集積回路の輸入額(596 億ドル)、数量は、それぞれ同 72.3%、同 6.6%となった。ただし、原油(224 億ドル)については、中東情勢による海運遅延の影響で輸入量は同▲41.3%、輸入額は同▲7.4%となり、輸入全体の伸びを押し下げた。

今後については、半導体輸入が高い伸びを維持すると見込まれることから、7 月の輸入は高い伸びが続くと予想される。なお、6 月の輸出額(4,124 億ドル)から輸入額(2,868 億ドル)を差し引いた貿易黒字は 1,256 億ドルとなった(四捨五入の関係で若干の誤差が生じる)。